

特集

JPS音楽切手部会が選ぶ

『音楽切手』 ベスト50!!

【人物編】

1位



モーツァルト(1756-91)/生誕200年
(オーストリア・1956年)

数多くあるモーツァルト切手の中で抜群の人氣を誇り、今回のアンケートでも堂々の第1位を獲得した。原画はモーツァルトの義兄ランゲが1789年ころに描いた油彩画で、顔の部分だけが完成し、あとは未完成だが、モーツァルトの肖像画としてもっともよく知られている。黒味がかった青色単色の凹版印刷は格調高く、氣品を感じさせる。



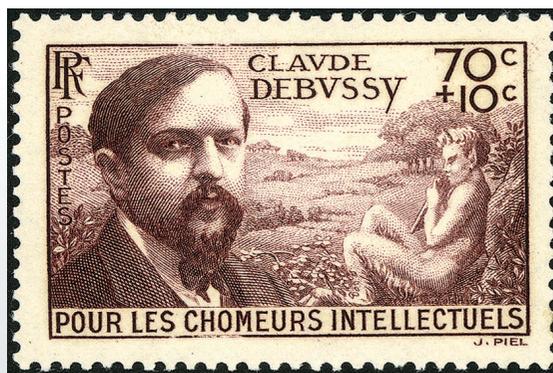
ベートーヴェン(1770-1827)/没後125年
(ベルリン地区・1952年)

1812年、ベートーヴェンが42才の時に作成したライフマスク(彫刻家・クライン作)を月桂樹の葉で飾ったもの。当時、すでに全聾に近かったベートーヴェンは、型をとるため顔面に石膏を塗られるのを嫌がったという。クラインは、このライフマスクをもとにして、ブロンズの胸像を製作する。彼の面相にもっとも忠実であり、後の胸像、記念像のモデルになったとされる。

※当否、切手180%拡大。

毎年、好評をいただいている“ベスト50!!”特集。今回はJPS音楽切手部会の皆さまにご協力をいただき、“音楽切手ベスト50!!”を別格の「3大名品」と「人物編(1~25位)」、「人物以外編(1~20位)」、「日本編(1~5位)」の4つに分けてご紹介しします。美しい音楽切手の数々をお楽しみください。(編) [構成・協力] JPS音楽切手部会

2位



ドビュッシー(1862-1918)/失業知識人救済付加金付き
(フランス・1939年)

額面違いで2種発行され、もう1種は80c+10c。フランス印象派を代表するドビュッシーは昨年生誕150年を迎えたが、それまで彼の切手は極めて少なかった。故に上位入選となった一因かも知れない。肖像の右側は代表作《牧神の午後への前奏曲》のイメージ、パンの笛を吹く牧神。

3位



4位

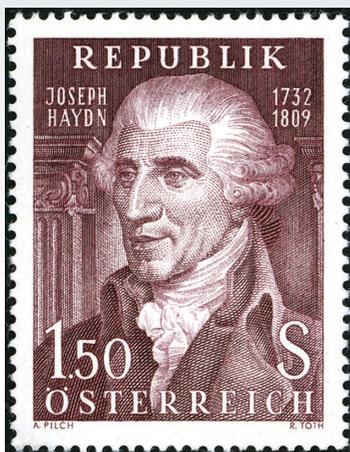
フルトヴェングラー
(1886~1954)／没後1年
(ベルリン地区・1955年)
フルトヴェングラーは、20世紀前半の最大の指揮者。1905年に指揮を始め、やがてベルリン・フィルハーモニー管弦楽団などの指揮者に就任し、ドイツ音楽界の頂点に登りつめる。



7位

ヴェルディ(1813-1901)／没後50年(イタリア・1951年)
イタリアオペラの巨匠、ヴェルディを描いた最初の切手。ヴェルディの生地ロンコーレはバルマ公国の管轄で、肖像の左はバルマ王立劇場、右はバルマ大寺院を描いている。

【人物編】名作曲家、名指揮者が上位にランクイン



5位

ハイdn(1732-1809)／没後150年
(オーストリア・1959年)

交響曲の父と呼ばれるハイdnは、104の交響曲を始め、多くの協奏曲など器楽曲のほか、オラトリオ《天地創造》、《四季》やオペラも作曲し、18世紀後半の古典派様式を確立した。

音楽切手とは何か

この質問への答えは案外むずかしい。例えば、ポストホルン(郵便馬車のラッパ)を入れるのだけでも悩ましい。もし入れると郵便制度に絡んだデザインなので、世界中の国から長いリストができる。「音楽切手とは何か」への答えは、コレクター各人が、自分の好みに従って定義するほかない。

当部会では、「音楽切手」は「クラシック音楽切手」とほぼ同義語に用いられている。この定義で分類すると、人物(作曲家、指揮者、演奏家、歌手、舞踏家など)、楽器(鍵盤楽器、弦楽器、打楽器、管楽器、民族楽器など)、建造物(コンサートホール、オペラハウスなど)、オペラ、



6位

ボン、ベートーヴェンホール落成(西ドイツ・1959年)

ベートーヴェンの生地ボンでは、彼の名を冠した近代建築のホールを建設した。中央のベートーヴェンを囲む楽譜は、第9交響曲第4楽章『歓喜の主題』による二重フーガのスケッチ。下段は、左からヘンデル没後200年、シュポア没後100年、ハイdn没後150年、メンデルスゾーン生誕150年とそれぞれ記念年となっている。

バレエ、オーケストラ、楽譜、国歌などとなる。しかし、最近では発行ジャンルが広がったので、ポピュラー音楽(ジャズ、ロック、シャンソン、タンゴなど)とか、世界の民族音楽(ラテン、アジア、アフリカ)を収集対象にすることもできる。

音楽切手の一番切手

音楽切手の一番切手は、1889年、ドイツの2地



①ドイツのアルトナから発行されたモーツァルトを描く切手(1889年)。



〔各75%〕

②ポーランドから発行されたパドレフスキを描く切手(1919年)。

音楽切手の3大名品①

七楽聖セット
(オーストリア・1922年)

1922年4月24日に発行され、使用期間は同年5月22日までの約1ヵ月間に限られていた。当時、ドイツ、オーストリアは第1次世界大戦後のインフレ下であり、付加金の表示はないが額面の10倍で販売され、額面以上の金額は「貧困音楽家救済基金」に寄附された。著名な画家の原画をもとにしたもので、音楽切手の珠玉である。

また和紙に印刷された贈呈用7種セット(タトウ入り)が100部限定で出ており、デザイナーと彫刻者のサインおよび100番までの連番入りで希少品となっている。これ以外に全種に無目打がある。

- ◇ 2 1/2 K : ハイドン(1732-1809)*
- ◇ 5 K : モーツァルト(1756-1791)
- ◇ 7 1/2 K : ベートーヴェン(1770-1827)*
- ◇ 10 K : シューベルト(1797-1828)*
- ◇ 25 K : ブルックナー(1824-1896)*
- ◇ 50 K : ヨハン・シュトラウス二世(1825-1899)
- ◇ 100 K : ヴォルフ(1860-1903)*

※目打は、12 1/2であるが、*印の5種に限り、11 1/2がある。

モーツァルトやベートーヴェンなど著名な作曲家が描かれた「七楽聖セット」。



※カコミ内、90%縮小



8位

マラー(1860~1911) / 生誕100年オーストリア・1936年
オーストリア出身、ユダヤ系の作曲家、指揮者。ウィーン宮廷歌劇場、ニューヨーク・フィルハーモニーなどの指揮者を歴任。大編成の管弦楽による10曲の交響曲、管弦楽伴奏付き歌曲など大曲が多い。



9位

ベルリオーズ(1803-69) / 失業知識人救済付加金付き
(フランス・1936年)

1830年に発表した《幻想交響曲》は、ベートーヴェンの《第九交響曲》以後の最大の傑作。大編成の管弦楽を駆使した標題音楽の手法は、のちのリストやワーグナーの手本となった。

域から出たローカル・スタンプである。1つはアルトナからでた5種セットの中に、モーツァルト(10P/図①)、ベートーヴェン(20P)、ワーグナー(1M)があり、もう1つはマインツから作曲家・指揮者のフリードリヒ・ルクスが発行されている。しかし、今のところ、この2地域のいずれが一番切手かはハッキリしていない。

国家が発行主体の一番切手は、1919年にポーランドが発行した「国会召集記念」7種のうちの1種で、ピアニストで作曲家のパデレフスキを描いている(図②)。しかし、この切手は政治家として発行されたもので、音楽家とし発行されたものではない。やはり



10位

ロッシーニ(1792~1868) / 生誕150年イタリア・1942年
1800年代前半に活躍したイタリアオペラの巨匠。代表作《セヴィリアの理髪師》は、現在なお世界中のオペラハウスで親しまれている。



11位

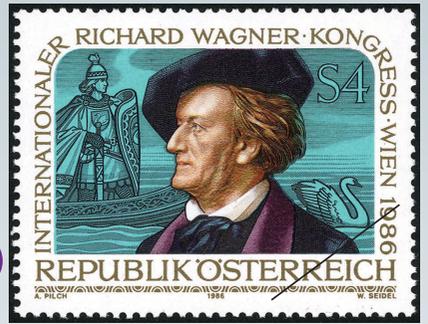
チャイコフスキー(1840-1940)
生誕100年(ソ連・1940年)
楽譜は『オネーギン』の開始部。単色凸版印刷で、ソ連の音楽家の一番切手でもある。



12位

リヒャルト・シュトラウス
(1864-1949)/没後5年
(ベルリン地区・1954年)

肖像は1941年6月、ミュンヘンのドイツ博物館で撮影されたもの。ベルリン切手の名品の1つ。



13位

ワーグナー(1813-83)/ワーグナー国際会議(オーストリア・1986年)

肖像(レンバウハ画)と『ローエングリン』の一場面。国際ワーグナー協会は、世界39地域に会員22,800名を数え、日本ワーグナー協会も加盟している。

【人物編】

14位



ブラームス(1833-97)/没後100年
(オーストリア・1997年)

大きく描かれた晩年の肖像と凹版印刷で、16位のシューベルトとともに人気の高い1枚。

15位



グリーグ(1843-1907)/生誕100年(ノルウェー・1943年)

1943年、第2次世界大戦の戦禍に喘いでいたノルウェーだが、この国民的作曲家の生誕を祝った。

16位



シューベルト(1797-1828)/生誕200年
(オーストリア・1997年)

大きく描かれた肖像(1825年・リーダー画)と紫の色調のデザインで、人気が高い。

発行目的からみても本格的な音楽切手は、1922年オーストリア発行の貧困音楽家救済目的の「音楽家切手セット(七楽聖セット)」(7種/名品①)を待たねばならない。さらに1933年ドイツ帝国から「ワーグナー楽劇セット」(9種/名品②)が発行された。1969年オーストリア発行の「ウィーン国立歌劇場100年(オペラ・バレエ切手セット)」(8種/名品③)と合わせ、この3つは格別に人気が高いため、本特集ではベスト50には含めず、別途「3大名品」として取り上げた。いずれも凹版で美的価値の高いものばかりである。

一方、日本の一番切手だが、山村雪夫の『トピカル・スタンプ・カタログ』によれば、1915年の「大正大札記念(4銭、10銭)」(図③)とある。紫宸殿南庭の式場を題材としたもので、左に火焰太鼓が描かれている。



図③：日本の音楽切手の一番切手は、火焰太鼓が描かれた「大正大札記念」4銭と10銭(1915年)。[55%]

音楽切手の広がりとその後の発行

切手は、自国文化発信のメディアでもあり、クラシック音楽の本場であるオーストリア、ドイツ、イタリア、フランス、旧ソ連東欧圏(ロシア、ハンガリー、ポーランド、チェコなど)の発行が圧倒的に多い。

1950年以降は、デザインの多様化に伴い発行国も多くなり、発行数が急激に増えた。同時にトピカル収集の傾向が進み、音楽切手もその主要なジャンルの1つとなった。切手の本来の目的と遊離した収集家目当ての土侯国切手が出てきたのも、1950年～60年代である。1997年に出された『音楽切手カタログ』(J.A.NORSTEDT氏編)によれば、もちろん定義にもよるが、当時で13,000～14,000種の音楽切手が累計で発行されているとあり、いずれにせよ収収を目指すには大変な種類があることになる。

「ベスト50」の選定手順について

編集部より、「ベスト50」の話を頂戴したのが5月初めで、原稿の締切りが9月末なので約5ヵ月を要

※4～5字、特記外、切手120%拡大。



19位

バッハ(1685-1750)/生誕250年
(ドイツ帝国・1935年)

「音楽の父」と称されるにふさわしいこの肖像は、1746年、バッハが没する4年前にハウスマンが描いた。



18位

第5回シヨバン国際ピアノコンクール
(ポーランド・1954年)

グランドピアノと27才のシヨバンの肖像は「ピアノの詩人」を象徴している。肖像は1837年のJ.F.A.ホヴィのメダルから作成。



17位

シベリウス(1865~1957)/
生誕80年(フィンランド・1945年)
存命中に発行された切手で、フィンランドの国民的作曲家の生誕を祝った。



22位

サン＝サーンス(1835~1921)
著名人シリーズフランス・1952年

様々な分野に作品を残し、フランス音楽再興の指導的役割を果たした。



21位

リスト(1811~1886)/生誕150年
(オーストリア・1961年)

「ピアノの魔術師」として活躍。肖像は晩年の聖職服姿のリスト。「110%」



23位

ドヴォルジャーク(1841~1904)
音楽年子エコスロバキア・1954年

ボヘミア生まれの民族的色彩豊かな作曲家で、アメリカの音楽院長時代も同地の民謡旋律を取り入れた傑作を生み出している。



24位

ヘンデル(1685-1759)/生誕250年
(ドイツ帝国・1935年)

ドイツ出身だが、イギリスに帰化し、オペラやオラトリオを中心に作曲。



25位

マリア・カラス(1923-77)/著名人
シリーズ(ギリシャ・1997年)

ギリシャの名ソプラノ歌手。戦後最高のプリマ・ドンナとして賞賛された。

する長期企画となった。

まず5月に選定委員会(7名)を組成し、2名の会員に編集協力をお願いしてスタートした。できる限り部員の総意を反映する方針で、国内の部員60名全員にアンケートを実施した。回収率は、予想以上に高く60%に達した。アンケートは、人物(上位30位まで)、楽器、劇場・ホール、オペラ(上位5位まで)、バレエ、舞踏、国歌、日本切手、その他(上位3位まで)を選び、名称、国名、発行年、発行目的、カタログ番号などを記入する内容なので、手間のかかるものであったが積極的に協力をしていただいた。アンケートの集計後、2回の選定委員会を開き、長時間にわたる討

議を重ねて、「人物(25種)」、「人物以外(20種)」、「日本(5種)」の3分類として合計50種の切手を選んだ。

特記事項は、「3大名品」として掲載した人気セットである。アンケートでは、単片での回答をお願いしたところ、この3セットの切手に人気が集まった。同じセットからの単片の羅列は如何なものかと考え、別格の扱いとした。「なぜアレが上位にないのか」と疑問に思う読者が多いかもしれないが、この点をご理解いただくと幸いである。

人物については、上位15位程度までは、得票数で順位が確定できたが、それ以下は得票数が分散したので、選定委員会で討議して選定した。また人物で



WIPAウィーン国際切手展(オーストリア・1933年)

国際切手展の開催を記念して発行された。図案はシュヴィントの描いた「A symphony」の一部で、ハネムーン用の旅行馬車が描かれており、下部に楽譜の一部が記されている。4枚綴りの小型シートがあり、非常に人気が高い。

1位



2位

バッハ紋章/没後200年(西ドイツ・1950年)

図案はバッハのモノグラム(J.S.B.)の印章で、同図案で色違いのもう1種がある。封書の裏面を熱した蠟で封じ、その蠟の上からこの印章を押捺して密封するのに用いた。

【人物以外編】



3位

ハープ/ベルリン・フィルハーモニー再建(ベルリン地区・1950年)
付加金付き切手2種のうちの1種で、音楽の象徴であるハープに月桂樹を配している。もう1種はヘント祭壇画の一部分で、歌う天使たちの図案

4位



ウィーン国立オペラ劇場再開(オーストリア・1955年)

戦災を被ったウィーン国立オペラ劇場再開を祝し、ブルク劇場と一緒に発行された。なお、両劇場の復興50年を記念した小型シートが、2005年に同国から発行されている。

は、例えばフルトヴェングラー、ドビュッシーなどは発行種類が少ないので、モーツァルト、ベートーヴェンなど多種類ある場合に比べて選択肢が狭く、一部の切手に票が集中する傾向が目立つので、ランキングの微調整を行った。

人物以外は、いろいろな範疇の切手の順位を決めるのは困難であったが、委員会で討議を重ね最終決定したのが実情である。なお個別の切手解説、主文、コラム、部会案内はそれぞれ分担を決めて担当した。

音楽切手の楽しみ方

この特集では、切手に限定しているが、これ以外に多数の郵趣品がある。例えば、実通カバー、FDC(初日カバー)、マキシマム・カード、ステーションナリー、記念印、メータースタンプ、切手帳、エラーなど。

さらには切手の製造過程にまでさかのぼり、原画、ダイ・プルーフ、トライアル・カラー、デラックス・シートまで手を広げると実に収集範囲は広く深い。

切手収集の楽しみ方は、特に決まったものはない。各人各様の楽しみ方があってよい。当部会は、「音楽切手大好き」という共通項で括られたコレクターの集団である。収集には「モノ」と「情報」が大切である。部会は、それを提供してくれるとともに、何といっても同好の仲間と親しく交流できる貴重な場でもある。音楽切手に興味を持たれた方は、初心者、ベテランを問わず、ぜひ部会へのご入会をお奨めしたい。

〔文〕荒井昭夫、大沼幸雄、加藤健一、佐々木紀夫、田中公雄、中館輝厚、村山 傑、茂原麻衣子、森 美代子/五十音順
〔協力〕今泉欣一 (敬称略)

音楽切手の3大名品②

ワーグナー楽劇セット
(ドイツ帝国・1933年)

ドイツでは1922年から毎年冬季慈善切手を発行していたが、1933年には従来と趣を変えてワーグナーの舞台シーンを描く9種の切手を発行した。これが「ワーグナー楽劇セット」と通称される音楽切手の名品である。表示はないが、額面の約60%の付加金付きで販売された。

この年の1月、ナチスは政権の座にいたが、ナチスにとって人種差別主義者のワーグナーは聖人となり、「楽劇セット」が題材になったのはそのためかもしれない。この9種の中には《神々の黄昏》がない。ヒトラーが1000年続くと豪語したナチス第三帝国にとって、黄昏はあり得ないから切手に取り上げられなかったという俗説もある。またハーケンクロ



▲ワーグナーの舞台シーンを描いた「ワーグナー楽劇セット」9種。

イツ(鍵十字/右図)の透かしは、この切手で初めて取り入れられた。音楽切手の名作である一方、時代を色濃く反映している切手とも言える。



切手に入れられたハーケンクロイツの透かし。

※カコミ内、90%縮小。



オペラ《魔笛》/モーツァルト没後200年(ドイツ・1991年)

モーツァルトの肖像と向かい合う形で、シートの左部分に魔笛を吹くパパゲーノが、初演時のポスターを背景に描かれている。なお、楽譜は「私は鳥刺し」。

5位



劇場ゼンパー・オーパー再建(東ドイツ・1985年)
第2次大戦により焼失したが、再建され、昔の姿を取り戻した。ゼンパーは設計者で、「ゼンパー・オーパー」の名称は旧ドレスデン国立歌劇場 現在のザクセン州立歌劇場の愛称。

6位

7位



楽器フィドル/スウェーデンの音楽家

(スウェーデン・1983年)

フィドル(ヴァイオリン)で民族音楽を演奏するヒンス・アンデンユ。スウェーデンの作曲家、彼自身自ら彫った作品の中でトップに挙げられている。

8位



《美しく青きドナウ》/作曲100年
(オーストリア・1967年)
ヨハン・シュトラウス二世が1867年、男声合唱用として、ドナウとは無関係に作曲、歌詞を改めた合唱版、管弦楽用改訂版はワルツの代名詞として、今なお愛され続けている。図案はバレエでのワルツの振り。ヴァイオリンは弾き振りした作曲者を想起させる。「130%」



9位

国歌《ラ・マルセイーズ》/ルジェ・ド・リール没後100年(フランス・1936年)
図案はラ・マルセイーズの象徴である兵士たちを率いる女神ニケ。



10位

楽器オルガン/第2回カトリック音楽会議(オーストリア・1954年)
聖フロリアン教会のオルガンで、通称「ブルックナーオルガン」。



11位

オペラ《魔弾の射手》/ウェーバー生誕200年(東ドイツ・1986年)
シート地は初演時のプログラムから、花嫁姿のアガテ、悪魔ザミエルなど。

【人物以外編】



12位

ポリショイ劇場/劇場創立175年(ソ連・1951年)
世界最高の歌劇団、バレエ団を擁し、ロシア人作曲家による多くの作品が初演された。[原寸]



13位

バレエ《白鳥の湖》/第1回チャイコフスキー国際コンクール(ソ連・1958年)
図案は、ポリショイ劇場のプリマでオデット姫を演じるレベシンスカヤ。



14位

バレエ/普通切手(スウェーデン・1975年)
図案は《ロミオとジュリエット》。スラニアによる名凹版!



15位

パリ・オペラ座/第79回フランス郵趣連合会議(フランス・2006年)
「ガルニエ宮」とも称される壮麗な歌劇場で、1875年に完成した。



16位

ベーゼンドルファー・ピアノ/創立175年(オーストリア・2003年)
ベーゼンドルファー社は、1828年創業の世界屈指の高級ピアノブランド。[原寸]

※8号、特記外、切手110%拡大、小型シート75%縮小。

音楽切手の3大名品③

ウィーン国立歌劇場100年 (オーストリア・1969年)

1869年5月、時の皇帝フランツ・ヨーゼフ I 世の命により新築開場した宮廷歌劇場は、1918年の共和制とともに「ウィーン国立歌劇場」となる。ウィーンを中心部にあるルネッサンス様式の威容は、音楽の都ウィーンが誇る音楽の殿堂である。

切手はウィーン国立歌劇場100年を記念して発行されたもので、中央の建物を描いたタブを囲んで、歌劇場の1960年代の人気演目の舞台が描かれた8種連刷の小型シートタイプである。切手には、モーツァルト《ドン・ジョヴァンニ》や、ベートーヴェン《フィデリオ》、ヴェルディ《ドン・カルロ》、チャイコフスキー《白鳥の湖》などの演目が描かれている。



中央のタブを囲んで8種の切手が並ぶ。

※カコミ内 55%縮小。

【日本編】



1位

宮城道雄(1894~1956) / 文化人シリーズ(1994年)
作曲家、箏演奏家。8歳で失明。西洋音楽の要素を邦楽に導入した。



3位

《能・羽衣》/ 古典芸能シリーズ第4集(1972年)
羽衣伝説より、羽衣を再び得た天女が歡喜の舞を舞う場面。



2位

芥川也寸志(1925-1989) / 著作権管理制度50周年(1989年)
作曲家。日本音楽著作権協会理事長としても功績大。



4位

サイトウ・キネン・フェスティバル 松本(1996年)
図案から想像されるのは、サイトウキネンフェスティバルの総監督であり、世界的指揮者の小澤征爾



5位

《荒城の月》/ 日本の歌シリーズ第1集(1979年)
日本を代表する滝廉太郎の名曲で、図案は大分県の竹田城址。

※カコミ内、切手原寸。



ミラノ・スカラ座/落成200年(イタリア・1978年)
イタリアのミラノにあるオペラ界最高の殿堂で、バレエ学校なども備える。

17位



オペラ《ラ・ボエム》/ プッチーニ生誕100年(イタリア・1958年)
同歌劇の1幕と4幕の屋根裏部屋を描く。1830年頃のパリのボヘミアン生活の光景。

※9㌥、切手原寸。



オペラ《アイダ》(エジプト・1994年)

1871年、エジプト・スエズ運河開通記念に建てられたカイロ歌劇場で初演。図中の人物は、アイダ(左)とラダメス(右)。

19位

フィンランド国歌/国歌制定150年(フィンランド・1998年)
楽譜はフィンランドの国歌《わが祖国》の冒頭部分。

20位

「JPS音楽切手部会」のご案内

当部会は、1992年の創立で、昨年、創立20周年を迎えました。部会創立の27年前から例会が休みなく続けられていたとの記録があり、グループ活動はほぼ半世紀前にさかのぼる歴史と伝統のある部会です。

音楽切手愛好者が集まり、「モノ」と「情報」の交換を積極的に行うとともに、部員間の親睦を深めることを目的としております。海外の姉妹団体(ドイツ・イタリア)とも積極的に情報交換を行っております。初心者・ベテランを問わず大歓迎です。ぜひご

入会をおすすめします。

【音楽切手部会概要】

- 会員数：61名(2013年3月末現在、うち米国1名)
- 例会：毎月第3日曜日14:40より、日白・切手の博物館で開催
- 部会報：『音楽切手部会報』隔月発行(奇数月)
- ミニボックス：毎年10月～11月開催
- 年会費：3,000円

【お問い合わせ先】

〒154-0001 世田谷区池尻4-27-32-408
大沼幸雄
TEL&FAX：03-3414-6258
Eメール：y-onuma@sage.ocn.ne.jp



▲部会報『音楽切手部会報』(年6回/奇数月発行)